

- 1 単元名・教材名 段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう
～オリジナル「遊びせつめい文」をつくろう～
<れんしゅう>「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は、学習指導要領<思考力、判断力、表現力>の「C 読むこと」(1)「ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述に基に捉えること」と「C 読むこと」(1)「オ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと」、<知識及び技能>の(1)「カ 主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること」と(2)「考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力
- ・目的を意識して、中心となる語句や文を見つけることができる力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第1次では、事前学習として『言葉で遊ぼう』を読み、「段落」を知り、「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。そして「初め」に書かれた「問い」と「中」に書かれた「答え」から、各段落の内容を捉えさせていく。そして、「終わり」を読み、感想を交流させる。

第2次では、『こまを楽しむ』を通読し、第一次で学習したことを基に、全体の構成と内容の大体を捉えさせる。そして、「問い」と「答え」の関係性について着目させ、各段落の内容を読ませる。また、「初め」「中」「終わり」の「中」が大きく分けると2つに分かれることを「終わり」の文章から捉えさせる。また、「中」の書き方が「初め」に書かれた「問い」に対して六つの事例を挙げていることを確認し、書き方について学ばせておくことで、第3次の学習に活かす。

第3次では、第2次までに学んだことを活かして、遊びを一つ決めて、その遊びについて事例列挙型のオリジナルせつめい文を作成する。第3次の1時間目に「トランプ」を例にして、文章構成や段落、「問い」と「答え」の文章を全体で確認することでオリジナル文章を書ける準備を行う。そして、「こま」「トランプ」の二つの文章を例にして、自分で事例列挙型で書かれた本を1冊選び、その内容を参考にして説明文を書かせる。そして、その内容を2年生の時の担任の先生に見せることで相手意識を持たせることで説明文を丁寧に書こうという気持ちを育ませる。そして、段落構成を意識した説明文を読み取る力のみではなく、説明文を書く力も身に付けさせる。

3 研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』
～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

仮説①

単元を通して付けたい資質・能力を明確にし、その力を付けるための言語活動を設定する。言語活動（学習のゴール）に向けて、主体的に学び、学ぶ楽しさを味わうことにより、生きて働く力が育つであろう。

〈 手だて 〉 ○本時の文章構成を活かした「オリジナル遊びせつめい文」の作成

本単元では、「初め」「中」「終わり」の文章構成の理解に加え、「問い」と「答え」のつながりを叙述に基づいて読み取ることを学習していく。「言葉で遊ぼう」と「こまを楽しむ」の二つの教材に共通するのは、どちらも、複数の事例が列挙される事例列挙型の説明的な文章であるということである。その教材の特性を生かして、本単元では、「言葉で遊ぼう」と「こまを楽しむ」の二つの文章から説明の工夫を学び、学んだことを活用して、いくつかの種類がある事例についてオリジナル「遊びせつめい文」を書くという言語活動を設定している。ここでは、日常生活の遊びの中で、一つのもので複数の遊びがあるもの（例：トランプ ばばぬき・七並べ・しんけいすいじゃく・大富豪など）を自分で考え、その遊びについて詳しく書かれた本を図書室で借り、本単元で学習した文章構成に基づいて、オリジナル遊びせつめい文を作成させる。実際に自分で事例列挙型の説明文を書くことによって本単元で学習した段落相互の関係や文章構成などの理解をより深め、生きて働く力が育つであろうと考えた。

仮説②

単元を通して、相手意識・目的意識をもった学習活動を工夫する。協働的に学び合う場を設定し、互いの思いや考えを主体的に伝え合い、考えを広げ深めることにより、生きて働く力が育つであろう。

〈手だて〉 ○作成したオリジナル遊びせつめい文を旧担任に見せ、評価してもらう。

本単元では、前述の通り、説明的文章の文章構成を踏まえて、オリジナル「遊び説明文」を作成する。その際、単純に作るだけで終了とならないよう、旧担任に作成した文章を見せ、昨年度からの成長を評価してもらうことで相手意識を持たせていきたい。昨年度までは、読み解くことを中心に学習を進めていた説明文について、自分自身が一つの遊びを決めて説明文を書くことによって、第2次までに学習した内容をより深めていくことができるだろう。また、旧担任に見せる前に、作成したオリジナル「遊びせつめい文」を班で読み合う活動を取り入れ、学んだ内容を友だちに伝えることで、より説明的文章を理解し、確かな学力を身に付ける手立てとしていくことができると考える。

4 単元の目標

- (1) 段落の役割について理解することができる 〈知識及び技能〉(1)カ
- (2) 全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる 〈知識及び技能〉(2)ア
- (3) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えることができる 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア
- (4) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)オ
- (5) 進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを伝え合おうとしている 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元で取り上げる言語活動

- ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

関連：A話すこと。聞くこと 言語活動例ア)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ ②考えとそれを支える理由と事例、全体と中心など情報との関係について理解している。(2)ア	①「読むこと」において相互段落の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例、全体との関係などについて叙述を基に捉えている。C(1)ア ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。C(1)ウ	①進んで段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉え、学習課題に沿って、読んで考えたことを伝えようとしている。

7 単元の指導と評価の計画（全8時間）

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉遊びやこまについて知っていることを発表する。 ○単元の目標を確認し、学習計画を知る。 ○「言葉で遊ぼう」を通読し、「段落」について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題の確認 ○学習全体の見通し ○学習の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ○段落とその中心を捉えること、感想の交流に向けて読むことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【知識・技能①】 <u>発表・記述</u> ・「段落」の意味と役割について理解している。</p> </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」と「答え」に着目して「言葉で遊ぼう」を通読し、「段落」について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章構成 ○「問い」と「答え」の関係性 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書に線を引きながら、「問い」と「答え」の関係を捉え、内容を整理する。 ○「問い」と「答え」に着目して整理することで、「初め」「中」「終わり」が捉えられることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>発表・記述</u> ・「問い」と「答え」や「初め」「中」「終わり」に着目して、文章の内容を捉えている。</p> </div>
2	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「こまを楽しむ」を通読し、二つの問いを捉え、「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方の再確認 ○文章構成 ○「初め」に書かれた二つの「問い」の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」と「全体のまとめ」の段落を手がかりに、「初め」「中」「終わり」の構成を捉える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【知識・技能①】 <u>発表・記述</u> ・「問い」と「答え」の関係や「初め」「中」「終わり」に着目して、文章の構成を理解している。</p> </div>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○「中」を「答え」に着目して読み、中心となる言葉や文を確かめ、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」と「答え」の関係性 ○中心となる言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ○「初め」に書かれた二つの「問い」に対する「答え」をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>発表・記述</u> ・「問い」と「答え」の関係を捉え、「答え」が文章全体や段落の「中心」となっていることを理解している。</p> </div>

	5 本時	○「終わり」は、「中」をどのようにまとめているかを考える。	○「終わり」の段落の役割 ○「中」の段落相互の関係	○「初め」や「中」に書かれていることと、「終わり」の内容が対応していることを捉えさせる。 【思考・判断・表現①】 <u>発言・ノート</u> ・使われている言葉に着目して、「終わり」と「初め」「中」が対応していることに気付いている。
3	6	○「こまを楽しむ」の学習で身に付けた力を活かし、「トランプを楽しむ」という一つの事例列挙型の説明文をクラスみんなで作成する。	○文章構成 ○「初め」「中」「終わり」 ○自分の考え	○どのゲームを本文に選び、どの順番で説明するといいかを考えさせる。 ○事前にトランプの遊びを集計し、どのような遊びかを確認しておくことで中の内容をまとめやすくする。 【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>行動、観察</u> ・本文の叙述に基づいて、自分が遊んでみたいこと、その理由を明らかにして感想を述べている。
	7 8	○内容（種類）や、紹介する順序を考えて、種類があるものを紹介する文章を書く。	○文章構成 ○紹介文の作成 ○説明文の推敲 【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>発言・記述</u> ・単元の学習を振り返り、段落や文章の構成について分かったことや考えたことを自分の言葉でまとめている。	○第2次における学習を活用できるように、事前に数冊の本を用意し、複数の遊び方の紹介ができるようにする。 【知識・技能①】 <u>発言・記述</u> ・全体と中心など情報と情報の関係を理解し、それらを捉えることのよさを理解している。

本時の展開 (5/8時間)

(1) 目標

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア)

(2) 評価規準

「終わり」の段落に書かれた内容と「初め」「中」のまとめの役割をしていることに気付いている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の復習を行う。	○「初め」「中」の内容の確認	○前時で「問い」と「答え」が書かれている「初め」や「中」に注目して読んだことを確認し、「終わり」とのつながりを考えさせる。 ○色チョークを使うことで対応している部分を視覚的に分かりやすくする。	5
2 本時のめあてを確認する。	○本時のめあての確認		3
㊟ 「おわり」のだんらくには、どのようなやくわりがあるのだろう。			
3 既習の学習を整理し、「終わり」の内容を確かめる。	○「終わり」の音読 ○「終わり」と「初め」の関係 ○「終わり」のキーワードの確認	○全員で音読することで、大事なキーワードに気付かせる。	7
<p>〈予想される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わりの一文目にある「さまざまなしゅるいのこまがあります。」が初めの「どんなこまがあるのでしょうか」とつながっている。 ・終わりに「楽しみ方」という言葉があつて初めにも出てきている。 ・初めの二つの問いに対してまとめて答えている。 			
4 「終わり」の文章を基に「中」を二つのまとまりに分ける。	○6種類のコマの仲間分け ○「中」の順序の意味	○中の内容をもう一度確認し	10
<p>〈期待される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わりの三文目の「人々は、このつくりにくふうをくわえ、<u>回る様子や回し方</u>でさまざまな<u>楽しみ方</u>のできるこまをたくさん生み出してきたのです。」と「中」のこまの6種類がつながっている。 ・中の前半の三つはこまの回る様子を楽しみ方について書かれていて、後半の三つは回し方を楽しむことが書かれているので、中は二つに分けられそうです。 			
5 「終わり」の段落の役割を考える。	○「中」と「終わり」の対応 ○接続語の確認	<p>〈評価場面〉【思・判・表】 〈評価方法〉<u>行動、記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・使われている言葉に着目して、「終わり」の段落に書かれた内容と「初め」「中」の関係について気づいている <p>〈努力を要する状況(C)への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つのキーワード「さまざまなしゅるいのこま」「回る様子」「回し方」「楽しみ方」に注目させる。 	10
6 本時のまとめをする。	○まとめ	○「初め」「中」「終わり」の三つに書かれているキーワードを確認し、それぞれの関係性を捉えさせる。	5
㊟ 「おわり」には、「はじめ」や「中」のないようをまとめるやくわりがある。			

<p>7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んでよかったこと ・新しく分かったこと ・今後に生かしたいと思ったこと 	<p>○「終わり」の内容を振り返らせ、どのような文章構成になっていたかを書かせる。</p>	<p>5</p>
<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おわり」が文章をまとめていることが分かりました。遊びオリジナルせつめい文でも「はじめ」「中」「おわり」をいしきて文章を書きたいです。 ・「はじめ」と「中」のないようが「おわり」とつながっていることが新しく分かりました。文しょうを書く時には、「はじめ」「中」「おわり」の三つに分けて書いていきます。 			
	<p>○次時の学習の見通し</p>	<p>○次時では、「こまを楽しむ」の文章構成を基に、「こま」から「トランプ」になった場合、どのように説明するかを学習し、遊びオリジナルせつめい文の内容に生かすことを確認し、見通しを持たせる。</p>	

9 板書計画

ふ

「おわり」は、「はじめ」「中」をまとめるやくわりがある。

おわり

⑤このように、日本には、さまざまなしぐら、のこまがあります。それぞれ色や形もちがいますが、じくを中心にしたバランスをとって、かまを回ると、かまは同じです。大人は、このかまを回して楽しむ。子供は、かまを回して楽しむ。こまをたくさん生み出してきたのです。

〈文しょう全体のまとめ〉

中 答え

②色が変わり、こま
③鳴り、こま
④さか立ち、こま
⑤たたき、こま
⑥曲、こま
⑦ずぶり

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

はじめ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

はじめ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

め

「おわり」のだんうくには、どのようなやくわりがあるのだろうか。

「安どり 正き」